

2008

Annual Report



フィリピン共和国カオハガン島



Japan Dental Mission
NPO法人ジャパン デンタル ミッション



ヤスール火山の噴火（ヴァヌアツ共和国）
世界で最も火口に近づく火山

Contents

代表理事挨拶	1
海外活動報告	2
7月ヴァヌアツ共和国	2
9月ヴァヌアツ共和国	5
11月フィリピン共和国	8
2月フィリピン共和国	11
海外活動参加者の声	15
国際交流	23
八尾西山本小学校とラナケル小学校との国際交流	23
ヴァヌアツ共和国との文化交流から学ぶ	24
国内活動	31
学術報告	32
ジャパン デンタル ミッションについて	36
協力者名簿	37
2009年度海外活動予定	38
理事	39



代表理事挨拶

戦前、日本では歯を磨く習慣が一般的ではありませんでした。そのため、う蝕や歯周病の罹患者が大勢いましたが、戦後、アメリカの GHQ により、小学校の校庭で歯の模型を用いたブラッシング指導を行っていたことがつい先日のように思えます。

あれから 60 年余りが経過しましたが、その後、日本歯科医師会を中心とした 8020 運動が展開され、歯を磨く習慣や口腔衛生の概念が根付いた結果、う蝕罹患率が減少の一途を辿っています。

これらの経験をふまえ、我々はヴァヌアツ共和国の歯科治療や衛生向上を目指したさまざまな活動をさらに発展させるため、2004 年、同国の厚生省並びに文部省との間で調印を交わしました。

ヴァヌアツ全島の小学生全生徒（約 38,000 名）に歯ブラシを寄付し、口腔衛生指導のためのポスターを作成しました。

また啓蒙運動の一環として、学校の教育関係者や医療関係者 150 名に集ってもらい、口腔衛生向上を目指したレクチャーを行いました。このような活動は、今後も継続していきたいと考えています。

また、文化交流として日本とヴァヌアツ共和国の小学校との間で絵画の交換を行っています。

昨年は日本から無地の鯉のぼりを持参し、現地の小学生に描いてもらいました。今年は日本の小学生が作った凧を持参し、凧上げを通じて日本の文化や習慣に触れてもらうことができました。

絵画等を介した交流により、子供たちが互いの文化を理解できる機会を設けることはとても大切なことだと思います。

フィリピン共和国に於いても同様の活動を行っていますが、ヴァヌアツ、フィリピン両国政府がわれわれの活動に大いに期待してくれています。

80 年代から日本では NGO 活動が根付き始めました。しかし、まだまだ発展途上にあると思われます。活動地域において、他の組織などと協力し、積極的に連携して情報や経験を共有できるようにし、活動を積み重ねていくことが日本の国際協力 NGO に求められることだと思います。

代表理事 沢田 宗久



海外活動報告



ヴァヌアツ共和国
Republic of Vanuatu
タンナ島・マレクラ島

7月ヴァヌアツ共和国

場所 ヴァヌアツ共和国・タンナ島

期間 2008年7月12日～7月21日

参加メンバー

(上段左から) 関根淳(D) 大西富子(H) 沢田宗久(D)

(ヴァヌアツ政府関係者) 上崎秀美(D)

(下段左から) 萱中寿恵(D) 山本喜代(V)

川田昌美(V) 羽原佳子(D)

*歯科医師(D) 歯科衛生士(H) ボランティア(V)



7月13日(日)

夜ポートビラにて東京組の関根・萱中と合流

7月14日(月)

ポートビラに残って政府とミーティングする。(Dr) 沢田、(Vo) 川田と、タンナ島先行隊に分かれた。政府との話し合いについて9月ヴァヌアツ組がポートビラの医療専門学校で歯科口腔衛生のレクチャーを行う事が決まった。以前寄付した3万五千本の歯ブラシは島々に行渡ったが、数千本まだ足りないそう。どの様にレクチャーされているかはそこでの教育レベルに依存されている。今後理事会にてヴァヌアツで必要な4万本の歯ブラシをどうするか検討する。政府は輸送費を負担する。宿舎に関しては来年以降も病院の近くになる事を約束し、有意義な話し合いとなった。



タンナ島先行隊

宿泊場所が前回と違って Dr イソ・ナカの自宅になっていた。病院の建て替えでスタッフの住居が無くなったため。

病院の建て替えは上手く行っていない模様

歯科診療室の準備と食事の用意で半日過ごした。

7月15日(火)

午前中：6時起床病院班は8時から診療。初日は患者が少なかった。

本日サッカーのイベントがあるためとのこと。

外回り班はディップポイントへ。

サッカーボールと鉛筆、歯磨きの寄付。

その後紙芝居にて TBI、そして検診。

途中車がぬかるみにはまって動けなくなったが、無事帰還。所要時間は4時間ほど。

午後：後発隊と合流。お昼はみんなで食べた。
ラナケル小学校へ凧・カルタ等の文化交流の準備へ。

7月16日(水)

病院チーム

午前は抜歯、午後はクリーニングが多かった。時間が空いた為、病院で歯ブラシを配り、TBIを行う。

ラナケル小学校国際交流チーム

午前中幼稚園、小学5年生までの歯科検診

午後は6年生の歯科検診と国際交流。八尾西山本小学校からの手書きの凧を交換。その後八尾西山本小学校の生徒のリコーダー演奏の yumiyumi をヴァヌアツの小学生の歌とコラボレーション。

外回りチーム

予定と違う小学校。室内で検診。2年ぶり。
問題なく検診出来た。

7月17日(木)



病院チーム

JDM が来るインフォメーションがされてなかった事が発覚。患者は少なかったがクリーニングや充填が多かった。

外回りチーム

トゥフ学校へ。生徒数が200人以上いて歯ブラシが足りなかった。トゥフは16歳くらいの生徒までいて、ヴァヌアツの学校のシステムはどうなっているのか疑問がある。

ラナケル小学校チーム

午前中幼稚園と小学1年生 TBI をした。紙芝居の媒体も非常に分かりやすかった。午前中から午後にか

けて交換する凧のペイントが行われていた。寄付したカルタは非常に好評で人気があった。午後は残りの生徒にTBIした。検診を終えたトゥメリが合流し、ビシュラマ語で上手に説明してくれた。

夜は希望者が火山を見に行った。今年は火山の活動が活発で迫力のある噴火が見られた。



7月18日(金)

病院チーム

ティミーに変わってトゥメリが診療所を手伝ってくれた。スケーリングなど予防的な処置が多かった。
外回りチーム

予定には無かったが、去年行ったが今年まだ行っていないユピルメイ小学校へ行くつもりで出かけた。しかし小学校が休みで検診は出来なかった。飛行場の近くの別の小学校に変更し、検診を行った。途中、車がガス欠でエンストするハプニングはあったが、無事検診出来た。

ラナケル小学校チーム



10時頃から凧の交換のセレモニーを行った。国歌と校歌の合唱があった。子供たちも校長先生も非常に喜んでいて。午後からは診療所の片付けを行った。

非常にスムーズに片付けが出来た。夜はかつてお世話になったヤオさんの招待でホームパーティーをして頂いた。非常に充実したホームパーティーでヴァヌアツ人の純粋な心に触れることが出来た。

7月19日(土)

朝から宿舎と診療所の荷物をパッキングして倉庫に片付けた。その後昼の飛行機の時間までホワイトグラスホテルにて各自休息をとり、お昼を食べてタンナ島を出発した。ポートビラでは JICA 所長宅にて邦人の歯科検診を行った。その後 JICA 職員や現地邦人と夕食を共にした。

7月20日(日)

朝から政府倉庫の機材のチェックを行い、修理が必要なもの、9月チームに残すもの、持ち帰るものなど整理した。飛行機の時間までは自由時間となった。夕方シドニーに到着し、今日はここで泊まり。

7月21日(月)

午前中にシドニーを出発し、20:30 に無事関空に到着した。解散式の後、解散した。

総括 活動をささえるチカラ

これまでのタンナ島小学校での口腔衛生指導を含む歯科検診事業は、4校をターゲットに実施されてきました。厚生省関係者でタンナ島の責任者であるイソ・ナカ氏との協議において、より多くの子供たちへの口腔衛生指導の機会を得ることを目的に、これまで訪れていなかった小学校から毎年無作為に選ばれる1校を加えた合計5校への実施予定となりました。また、ヴァヌアツ政府の要請を受け、本年9月に実施予定の JDM 講習会は、現地の教育関係者へ向けたもので、ヴァヌアツ国民への口腔衛生向上の重要性を啓蒙していく政府の積極的な姿勢を目の当たりにすることが出来ました。

こうした背景からも、現地スタッフとの充実した内容の濃い協議ができていう実感を得ており、まさに 25 年に渡る JDM 活動の努力がいろんなカタチで実を結んできていることを改めて実感。これからもたくさんの子供たちの笑顔に出会えそうな予感。

あらたな試み

タンナ島ラナケル病院での歯科治療は、遠方からの受診者に配慮して試験的に診療開始時間を 30 分早めました。診療開始時間の午前 8 時すぎから来院される方もおられ通院環境への整備が課題となりました。本年度チームも歯科技工士不在であったため、入れ歯製作

が出来ない状況での活動となりました。これまで以上に、口腔内は特に問題なく虫歯になってないかのチェックを希望する患者、予防処置やクリーニングを要望する若者の来院が目立ちました。実際の処置内容においてもこれまでの抜歯処置に代わり充填・予防充填処置に比重が高い傾向がうかがえます。われわれが力を注いできた口腔衛生啓蒙活動が少しずつではあるが島民に浸透していることを肌で感じました。現地島民に多く見られる歯の着色、その一要因と考えられるカヴァ(南太平洋諸国特有の伝統的飲料)摂取などの食生活習慣に関しても、今後何らかの検討が必要と思われます。いわば「審美的な要求」の高まりや「予防的な概念」の確立を受けて、われわれの活動にも工夫を加えていく必要性が考えられます。タンナ在島のデンタルセラピストであるティミー氏らとの連携を深め、具体的な対策や活動をより充実させていくことが出来ればと思います。

交わる喜び

昨年度より始まった文化交流では、診療活動中の真剣な眼差しは一変し、参加メンバー皆の表情はとても穏やかでした。トラックの荷台に乗り移動するわれわれスタッフに流暢な日本語で「コンニチワ!」と元気に挨拶してくれたのはラナケル小学校の生徒達～日本の子供たちとの交流を心待ちにしてくれている様子でした。昨年に皆一緒になって一枚一枚鱗を描いた鯉のぼりを掲げてわれわれを歓迎してくれました。八尾市西山本小学校の 5,6 年生が製作してくれた凧とカルタは大変喜ばれていました。ヴァヌアツ流の遊び方(カルタの奪い合いを「競う」のではなく、皆で一枚のカードを「一緒に選ぶ」)で楽しそうにカルタを手にする子供たちのキラキラと輝く眼差し、そして CD デッキから流れるヴァヌアツ国歌「ユーミン」～西山本小学校の子供たちが奏でるリコーダー演奏とラナケル小学校の子供たちの歌声が一つとなり、青く澄んだタンナの空に響き渡っていました。

人々の美しい笑顔、子供たちの楽しそうな声…。

私たちが現地で目にして感じる事ができたこの喜びを、JDM の活動を日々支えてくださっているすべてのの方々へお届けしたいと思います。

たくさんのご支援ご協力に深く感謝申し上げます。

ありがとうございました。

日付 処置	7/15	7/16	7/17	7/18	7/19	
抜歯	16	5	7	7	0	35 (歯)
充填	5	7	11	2	0	25 (歯)
予防充填	0	7	14	4	0	25 (歯)
義歯修理	1	0	0	0	0	1 (床)
スケーリング	0	9	17	4	0	30 (人)
その他	2	0	0	4	6	12 (人)
来院数	19	18	28	17	6	88 (人)

学校名	日程	受診者	C1	C2	C3	C4
DIPPOINT	7/15	128 人	74	20	19	18
IAVENKULA	7/16	90 人	28	15	4	4
TUFU	7/17	169 人	20	24	9	15
LANAKEL	7/17	132 人	85	67	21	9
CHRISTAIN	7/18	30 人	32	5	0	0
	4 日間	549 人	239	131	53	46

(本数)



JICA のメンバー



保健省と教育省のメンバー

9月ヴァヌアツ共和国

場所 ヴァヌアツ共和国 マレクラ島

期間 2008 年 9 月 14 日～9 月 21 日

参加メンバー

(上段左から)石田義治(J)森川だいき(J)島野真紀(D)
志波徹朗(V) 岡村亮介(V)吉竹高志(V)
石川ともみ(J)

(下段左から)松野昭仁(D)黒田夕起子(V)

遠藤直子(H)吉竹弘行(D)真崎陽子(V)

＊歯科医師(D) 歯科衛生士(H) 歯科技工士(T)
ボランティア(V) JICA 青年海外協力隊(J)



9月15日(月)

Port Vila 着 JICA で保管されていた荷物・機材の確認と、食料の買い出し。

9月16日(火)

Norsup 着 午前、検診班はノルスूप小学校へ。
1年生から4年生まで検診し、5・6年生は後日行うこととなった。
ノルスूप病院班は6人診療、抜歯が多かった。





ビシュラム語への通訳は Dr.トゥメリの協力の下スムーズに行われた。



午後、検診班はタウトゥ小学校へ。
各小学校へサッカーボール・歯ブラシ・マジック・バトミントン・鉛筆等を寄贈。
検診には青年海外協力隊の方が同行してくれた。
病院班は8人診療。充填処置と抜歯を行った。
青年海外協力隊の方が、事前にJDM活動告知を複数箇所に貼ってくれていたため初日から患者さんが集まっていた。
夜、青年海外協力隊の方々と夕食を共にした。
ちらし寿司・さば煮・そうめんなど、久しぶりの日本食にとっても喜んでいただけた。

9月17日(水)

真夜中・・・オンドリのおたけびで目が覚める…。
午前、検診班はワララノ小学校へ、病院班は16人診療。

午後、全員でボートに乗りウリピブへ渡り検診。

サッカーボールや歯ブラシ等を寄贈し、ウリピブ小学校の手染めのコットンをいただいた。検診後、スイカやパパイアを準備してくれており、すごく美味しくいただいた。図書室などを拝見させていただき、AIDSがヴァヌアツでも問題になっているという内容のポスターを見た。

海外へ出稼ぎに行ったヴァヌアツ人や、海外から来る外国人が原因という事だった。



夜、青年海外協力隊の方と、カババーへ。
赤いランプ一つだけが灯った独特の雰囲気緊張する。予想を遥かに上回る味にかなりびっくりしたが、“カバ飲む心得”通りいっきに飲み干し水でうがい。後は、口直ちに蒸したバナナやバナナチップ、クッキーなど甘いものを食べまくってしまった。カバはコショウ科の植物の根から作られ、ヴァヌアツ産のカバは32種類もの即効性の成分が含まれており、世界で最も強いカバと言われているらしい。2・3杯で催眠作用がきつく出るようだ。



9月18日(木)

もうオンドリのおたけびでは目が覚めなくなる。
午前、Dr.吉竹は歯科口腔衛生のレクチャーの為、Port Vila へ出発。

全員で病院へ行き、在庫確認及びパッキングの準備。
17人診療。充填と抜歯を行う。顎がしっかりしている為か智歯が真っ直ぐ生えていてカリエスになっていたたり、智歯周囲炎を起こしている患者さんが多く智歯の抜歯が多かった。



午後、全員で Dr.トゥメリと共にネランブ小学校とレンサリ小学校へ。ネランブへ向かう途中に車が三度ほど止まり、フィルターのクリーニングの為、高校へ立ち寄る。待機中に昼食。ネランブ小学校では、教室内でレセプションを催してくれた。

夜、宿舎の荷物のパッキング。

9月19日(金)

Dr.吉竹のレクチャー予定場所が変更となる。

午前、ラカトロ小学校検診班と病院班に別れて出発。
ラカトロ小学校の近くにはマーケットがあり合成着色料のきついジュースなどが簡単に手に入る為か、着色歯や虫歯が多く感じた。

“毎日歯磨きしている？” “YES！！”

“甘いものは好き？” “NO！！”

と満面の笑みで言っていたが・・・ちょっと疑わしかった。ノルスープ病院では、最終日もあって33人診療。抜歯・充填・義歯修理を行った。

ノルスープ小学校へ初日に診られなかった5・6年生を検診しに行ったが、5・6年生の先生が休んでおり生徒もほとんど休みであった為、初日に休んでいた低学年の20人程を検診して終了となった。

食料品は、青年海外協力隊の方々へ寄贈し、鍋などと一部の保存食はノルスープ病院へ保管。

15:30 Port Vila へ出発。JDMメンバー8人のみ搭乗の小型機に大興奮と大緊張。

Port Vila で Dr.吉竹と合流。レクチャーを行った場所は、蚊が多くて大変だったようだ。

久しぶりのホテルの温水シャワーとベッドに感動。

9月20日(土)

午前中、飛行機の時間までは自由時間となった。

タービンを JICA 事務所に保管していただく。

15:20 SYDNEY へ出発

夜 SYDNEY に到着。夕飯を食べた後、オペラハウスを見に行き『なんちゃってシドニー』を体験した。

9月21日(日)

早朝シドニーを出発。成田経由で夜、伊丹空港へ無事到着。解散式の後、解散！





11月フィリピン共和国

場所 フィリピン共和国 カオハガン島

期間 2008年11月20日～11月24日

参加メンバー

(上段左から)水田理絵(H) 垣内万智子(H)

久保田敬子(H) 佐々木佐代美(H)

川渕泰政(D) 上崎秀美(D)

平田敏彦(D)

(下段左から)島の子 木下ゆかり(H)トッペル(通訳)

富田真仁(D)伊藤晴夫(V)

* 歯科医師(D) 歯科衛生士(H) ボランティア(V)



自称「雨男」の平田先生の雨パワー以上にメンバーの晴れパワーが強かったのか、今回の活動時間は常に快晴でした！サンサンと輝く太陽・満点の星空・突然やってくるスコール！南国を満喫できました！！

11月20日(木)

お昼12時、関空にて大阪出発組(7名)が集合し、PR409便でフィリピン・セブ空港へ直行しました！18時カオハガン島のスタッフ青木氏と合流、足止めは多少喰らったものの無事入国し、東京組(3名)と合流、全員(10名)集合しました！

すっかり暗くなり、軽く雨模様の中、タクシー・小船を乗り継いでカオハガン島へ向かいました！真っ暗な海上では、早速、夜光虫がお出迎えでした！

21時30分カオハガン島上陸です！到着後、島での初食事、ミーティングを行い、各自就寝準備の為、解散。到着時には真っ暗だった為、未だ見ぬ島の自然に期待しつつ、明日からの活動にちょっぴり緊張しつつ、カオハガン島バンガローにて就寝。

11月21日(金) 晴！！ 夜中豪雨

朝7時、島民のほうきの音(朝の掃き掃除)と、鶏の鳴き声で清々しい朝を迎えました(笑)！

時間をたっぷりかけた島オリジナルスタイルの食事を済ませ、いよいよ活動開始です！！



今回の活動中がラプラプ市の祭りとなり、島の小学校はお休みでした。その為、学校でのブラッシング指導は21日・22日の2日間・2組に分けての活動となりました。

21日午前は小学生低学年を対象にDr平田・DH垣内・水田・木下が口腔衛生指導と染色ブラッシング指導に出かけました。残りのメンバーは教会にて診療準備と待ちに待った患者様をお出迎えです。早速、活動開始です。午後は全員で診療に励みました。島内を歩いていると、子供達が口々に「What's your name?」と聞いてきてくれた。名前って大切だなあと、改めてしみじみ考えさせられた。

17時、第1日目の診療終了です。心地よい疲れと島の優しい風を全身に受けつつ、母屋へ帰り、夕食を楽しみ、引き続きミーティングです。初日の感想と明日の打ち合わせをし、解散。最終日夜に予定しているDVD鑑賞会のリハーサルがスタッフ自由参加で行われた。他は各自カオハガン島を満喫しつつ就寝。

11月22日(土) 晴 夕方スコール 夜無風

この日もほうき音と鶏の挨拶で目を覚ます。朝食後、昨日学校に行かなかったDr 富田・DH佐々木・久保田が小学校高学年の子供達に口腔衛生指導と染め出しブラッシング指導に向かう。他メンバーは教会にて診療開始！

午後は全員で診療。活動日3日間の中で一番忙しい診療日になった。

昨日、名前を教えた子供達からスタッフの名前が広まり、アチコチで呼ばれて皆嬉しそうだった！名前を呼ばれる事で人と人の距離がこんなに早く近づける事を教えられた。

夜は伊藤さん恒例のたこ焼きパーティーで盛り上がった！綿菓子も振る舞われた！！



11月23日(日) 晴！！

朝からみんな少～しウキウキしている感がある。何を隠そう筆者自身かなりウキウキしていた。今日の午後行われる大運動会の準備（玉入れの赤玉塗り等）を朝から行う。朝食後、最後の診療と後片付けに向かう。エプソン販売株式会社よりJDMにご寄付頂いたプロジェクターとスクリーン（今夜行われるDVD試写会に使用する）を島の人達の為に有効的に使って頂くように、伊藤さん（V）より村長さんへ授与式が行われた。

昼近くなってもポツリポツリと患者さんは切れずに来られた。診療を終え、片付けを終えて教会を出る時、「ありがとうございました」と言う気持ちでいっぱいになった。

昼食後、準備を行い、いよいよ大運動会です！ぞろぞろと島民の人たちがワイワイ・ニコニコたくさん集まって来て下さった。国籍や年齢性別に関係なく皆が笑顔でスポーツを楽しんだ。特にお母さん世代の女性が嬉々として綱引きに参加して下さっている姿が印象的でした。玉入れ・2人3脚・リレー・綱引きを楽しんだ後、全員に参加賞のハブラシが配られた。島民が去った後、砂州でメンバーの記念撮影を行った。

星空の下で頂いた夕食時、島の店で買った巨大蝦蛄の姿焼きが振る舞われ、大いに盛り上がった。

夕食後は本日2つ目のイベント！JDM初のDVD試写会です。8時に近づくと子供達が母屋に集まって来ました。母屋の裏の広場でプロジェクターが用意され、上映された「ファインディング ニモ」を喰い入るように観ている子供達の顔は真剣そのもの！子供達が1番笑っていたのが歯医者のシーンで患者さんが抜歯されていたシーンでした！！上映後、子供達から感謝状を頂きました！



試写会後ミーティングを行った後に、Dr 富田によりJDM天体観測のレクチャーが行われ、無限に広い宇宙へ想いを寄せた。満天の夜空から流れ落ちる星を見つけ、歓声が度々あがるロマンチックな夜でした。

11月24日(月) 曇 島を離れると少し雨

早朝、Dr 川渕（26日帰国）・伊藤さん（25日帰国）を残し、他のメンバーは帰国の途につく。島で焼きたてのココナッツパンを購入し、食べながら島を離れる船に乗る。数人の島民が見送りに来てくれていた。マクタンの市場で屋台朝食をとり、セブ空港へ向かう。PR854便マニラ経由PR408便にて関西空港に19：20分到着。解散式の後、各自解散。

診療結果

活動内容	21日	22日	23日	合計
抜歯	23本	38本	32本	93本
CR	12本	20本	17本	49本
セメント	28本	32本	12本	72本
サホライド	4本			4本
根治		4本		4本
SC	3人	9人	3人	15人
義歯修理	3人			3人
その他	1本	2本		3本
人数	45人	53人	32人	130人

島別受診者	
カオハガン	63人
カオハガンスクール	29人
パガンアン	8人
クアミング	7人
カブルアン	5人
サンタロッサ	4人
バンダノン	3人
セブ	3人
ボホール	2人
無記入	1人
合 計	125人

(受診者130人 内5人は2日間受診)

平田リーダーより

11月20日(木)から24日(月)まで5日間、歯科医師4名、歯科衛生士5名、ボランティア1名の計10名で活動してきました。

今回、関空とセブの直行便が再開され、往路だけ利用できました。従来の朝7時集合が正午になり、かなり余裕ができました。

セブで成田からの3名と合流し、全員ハドソン経由でカオハガン到着。往復共潮まわりがよく海中歩行なしで済みました。

帰路ではイルカの群れと遭遇し、初めての体験に一同大興奮。

現地では、崎山氏も順子さんも留守で、初参加の6名にとっては残念でした。初代マネージャーの坂田氏が、

家族連れで日帰り訪問されていました。相変わらずお元気でした。

20, 21日はラプラプ市のお祭りで、学校も休みで外出している島民も多く、他の島からの人も少なかったようでした。

先生も帰省されており、小学校でのブラッシング指導や検診は6割ほどしかできなかった。

歯科衛生士の5名は全員初参加でしたが、かなり頑張っていたいただき、準備・診療・後片付け等ほとんど不都合は感じなかった。

特に、クリーニングの要望が多く、器具の充実と番号札の必要を感じました。

トッペル・エマ・バージニア・アゴスティーナの4名の手伝いもあり、トラブルもなく診療できました。感謝しています。

恒例となった運動会は23日午後3時開始。相変わらずにぎやかで、無秩序で、楽しかったです。玉入れのボールを半分赤に塗り、男女別に分かりやすくしました。この夜母屋の庭で、“ファイディング・コモ”の上映会を行った。伊藤さんが勤務のエプソンの組合から寄贈されたプロジェクターと大型スクリーンの迫力に圧倒され、子供たちは大喜びでした。母屋の事務所に貸し出しノートによる管理を依頼し、村長さんには自由に活用してもらうようお願いしてきました。

最終日は、ラプラプの市場の屋台での朝食。熱気あふれる庶民の生活の一部に触れられて全員満足でした。お財布にも優しくて、JDMもニコリ。

川淵先生と、伊藤さんは別便での帰国なので残念でした。もはやJDMの目玉企画です。

全員無事帰国、お疲れ様でした。不慣れなリーダーとして感謝しています。



2月フィリピン共和国

場所 フィリピン共和国・カオハガン島

日程 2009年2月10日～2月15日

参加メンバー

(上段左から) 小林 容子(H) 伊藤 美佳(V) 谷岡 悠(V)
中辻 孝一(T) 上崎 秀美(D)

(中段左から) 河内 光明(T) 村田 澄子(D)
栗生 茉莉恵(D) 宮崎 祥恵(D)

(下段左から) 山内 聖恵(D) 八尾 まりこ(D)
倉橋 朋子(H) 沢田 宗久(D)
大西 富子(H) 沖 成美(V)

＊歯科医師(D) 歯科衛生士(H) 歯科技工士(T)
ボランティア(V)



2月10日(火曜日)

午前7時30分、関西空港にて集合。9時55分、関西空港を出発し、13時5分にマニラ空港に到着。そこで東京からのスタッフと合流し、集合写真を撮影。マニラからセブ島へ向かう飛行機までの時間に全員でミーティングを行う。各自、自己紹介など顔合わせをし、1日目の活動場所・役割分担・カルテの書き方についてミーティングした。飛行機までの時間に軽い食事をとり午後5時45分にマニラ空港を出発した。午後7時15分、セブ島に到着し、そこからタクシーと船を使って移動。午後9時ごろカオハガン島に到着し、夕食をとって食後にミーティングを行った。ミーティングでは翌日の活動について、学校用のカルテについて、島についての諸注意などの話があった。その後、解散になり、ボランティアのメンバーはカルテの書き方講習を受けて1日目が終了した。



2月11日(水曜日)

午前7時に起床し、午前7時30分から朝食、午前8時40分から活動場所にて集合し、活動開始。活動場所の教会が今回午前中にミサを行うということで、この日のみ幼稚園として使われている場所をお借りして活動する事に。

準備をしていると少し雨が降ってきていたため、診察を近くにある小屋で行いデンチャーや治療を幼稚園の中ですることになった。

昨年からのデンチャー予約をしていた人やデンチャーを作りたいという患者さんがたくさん訪れ診察、その結果デンチャーの型を取るのと治療とに分かれて活動が進んでいった。

昼食後は午後2時から活動が再開され、午前と同じような活動内容だったが、教会で行われていたミサが終了し、午後3時30分ごろから教会へ移動していき、準備が終了するとまた診察→治療、もしくはデンチャーを技工していくという内容をこなしていった。

17時には終了。



夕食後のミーティングでは、翌日の学校検診についての役割分担やデンチャーの明日の予約についてなど話された。

2月12日（木曜日）

午前 9 時から活動開始。午前の小学校検診には、Dr. 沢田・Dr.宮崎・DH.倉橋・Vo.沖が向かい、残りのメンバーは教会にて昨日と同じ内容をこなしていく。

午前の小学校検診では、1・2 学年を午後の検診では 3・4・5・6 学年を検診

午前には JDM から小学校へ歯ブラシと画用紙 100 枚をドネーションとして贈呈した。

検診内容は、歯の染出し、TBI を行い、診察を行うという流れで行われた。診察後、治療が必要とされた人たちは何人かずつにまとまって教会へ移動して治療していった。

一般の患者さんが教会で治療している中で、小学生たちが治療にくると子供を優先して治療していく。

今回の小学校検診では、89 名を診察したが、その中でも 17 名は治療をしなくてもいいというすばらしい結果になっている。

昨年までは小学生でも入れ歯をいれなくてはならないというケースが多かったが、今回検診を見ていると、セメント等の治療により年々よくなってきており、予防ができてきていることが、この結果からわかる。

次回からは予防に関する映像などを上映するなどして、予防の意識を高めていき、再発防止や永久歯・残存歯などの治療をしていきたい。



教会では、設置していたチェアだけでなく空いている椅子を使い、要領よく診察を行うなどスムーズに活動が行われ、この日も午後 5 時ごろに活動が終了。

その頃、Dr.沢田はセブ島の市長と会うため、セブ島に行かれており、午後の活動終了する頃に帰ってこられた。

この日の技工は 31 床分のバイトが終了したため、翌日からはセット・リベースをおこなっていくことになった。

2月13日（金曜日）

午前 9 時から活動開始。この日も診察と治療を主に作業していく。

この日は、島民で JDM の活動を手伝ってくれているトッペルさんが誕生日で午後の活動中、一度中断し、JDM のメンバーや現地のスタッフ達でお祝いをした。お祝いが一段落ついたところで、お祝いムードからしっかり切り替え、それぞれが午後の活動に熱中していた。

この日のミーティングでは、デンチャーの技工が無事終了したことや明日の予定などについて話された。

2月14日（土曜日）

この日も活動は午前 9 時から開始されたが、この日がカオハガンでの活動の最終日と言う事で、撤収作業を主に行っていった。撤収作業をする人や、デンチャーをセット・調整をする人、その日も受診に来た患者さんを診る人、データを入力する人、午後からの運動会を用意する人などに分かれて活動した。

Dr.沢田は学校の先生とのミーティングに行かれた。



午前中には撤去完了し、午後から島民の皆さんと一緒にビーチで運動会を行った。

運動会では、リレーや二人三脚、綱引きなど、子供か

ら大人までが参加して大いに盛り上がった。

その日のミーティングでは、JDMで行っている小学生の追跡調査についての報告や、学校の先生とのミーティングで何があったか話があり、追跡調査については、前年に調査していた学生が中学へ行ったり、都合により学校へ行ってない人がいたり、はじめ15名いた対象者も今回では減っていた。その事から、次回からは新たな小学生を調査に加えていくなど、継続していけるようにしていくなどという案が出た。

学校の先生とのミーティングでは、今回寄付した歯ブラシを保管できる歯ブラシ置きなどがほしいということで、島のオーナーである日本人の崎山さんが作ってくれるとのことであった。

その崎山さんから、今カオハガンの島民の歯に対する意識が小学生をはじめ、高まってきていることを小学生の母親などにも知ってもらいたいと、次回からは親子が一緒に見られる、歯の予防に関わる映像を上映してほしいとのこと。そのほかにも、今デンチャーを使っている人への手入れなどのアフターケアなどについても、その方法などが書かれた紙を配布するなどしてほしいという希望も出た。

2月15日(日曜日)

午前3時に起床し、午前3時半にカオハガンを船で出発した。



セブ島の空港までタクシーで行き、空港にてチェックインを済まし飛行機の時間まで、皆で朝食をとった。成田空港へ向かうメンバーとはセブ島でお別れとなり、関西空港へは午前8時5分の飛行機に乗り、直行で帰国した。

関西空港に到着して、帰国手続きを終了し、集合写真を撮り解散した。

＜サブリーダー 報告 (上崎秀美)＞

2009年2月10日～15日 カオハガン
いつも教えてもらう初心者のもりだったんですが、なんとなく今回で6回目の参加になり、サブリーダーをおおせつかってしまいました。

2月は何故かいつも雨の印象ですが、今回潮周りはラッキーだったようで、行き帰りとも直接船乗り込みでした。

今回の一番の目的は義歯作成。島民たちにとっては久しぶりのことでいつもの倍くらいの患者さんたちがおしかけ、技工士さんたちは休憩の間もなく作業され感謝いたします。

事前のアピールが奏功したのか島外からもたくさんみえられ、本当にご苦労様でした。

診療は近年、シビアなケースの充填、根管治療に取り組み、新たな方向性も見えてきているように思えました。

運動会もいまや恒例行事になり、子供たちのみならず大人たちの楽しみの一つになっているようで興奮、爆笑の笑顔がメンバーの目に焼きついたのではないのでしょうか。

また、最終日撤収作業中に子供たちのブラッシングができたことは印象的でした。

もちろん、小学校の検診時には染め出し、ブラッシング、検診としていたことはわかっていましたが、診療台の上でやってみたかったことでした。前日まで、あの椅子は抜かれるところであり、麻酔注射、削られる、などいやな思いをするところであったはずですが。日本的な表現でいうと「まな板」の上であっただろうところに子供たちが“じーっと”口をあけて座っている。最初の2、3人は確かに嫌がったのですが、あとはスムーズにすわってくれて術者みがきに協力してくれました。

ドクター、衛生士の皆さんの協力で総数16名。
なんとなくハミガキの気持ちよさをわかってくれたかな？

ぜひ、次回には、ロビンソン、ラバーカップ等でTBIをして年少者、低学年の子供にこそハミガキの気持ちよさをわからせたいと思いました。

エナメルのはつせき感、口腔内のすっきり感を通じて健康
管理の大切さを体感、実感できたかなと思った一瞬で
した。

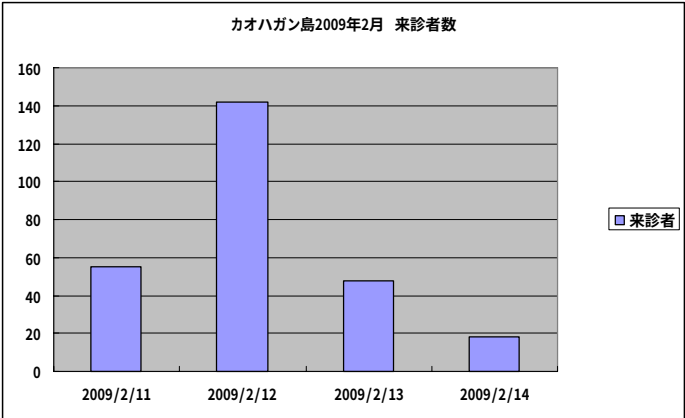
最後になりましたが、不慣れな分、沢田理事長をは
じめ皆さんに支えてもらいながら、全員無事に帰国で
きたことを感謝いたします。



治療結果

	2/11	2/12	2/13	2/14
抜歯	53 本	83 本	18 本	
セメント	25 本	79 本	19 本	
CR	20 本	16 本	17 本	
シーラント	3 本	59 本	14 本	
デンチャー調整	20 名	5 ケース	25 床	3 名
スケーリング		2 回		
その他				15 名
患者数	55 名	142 名	48 名	18 名

データ



ラプラブ市長表敬訪問

海外活動参加者の声

佐々木 佐代美 (歯科衛生士)

カオハガン歯科医療ボランティアに参加して！



佐々木 佐代美さん (左端)

今回、初参加という事で私に何ができるのか?どうしたらいいのか?とても不安でした。でも、澤田Dr.にお会いした時に、「自分も楽しみな損やで」と言う言葉に「そうなのかぁ」と思い、目の前が明るくなりました。実際、島民の口腔内を見るとカリエス、欠損共に多くビックリしました。とりあえず、診療の中で自分にできることを時間を忘れて行っていました。でも、診療が一段落着き、ふと外の風景を見ると、そこには、真っ青な海と空、子供たちの笑顔。そして、冷たいカラマンシージュース。本当にクタクタになった体に浸

みこんできて、私の心をホッとさせてくれました。

日本に帰国してから、いつでも使える電気、ガス、水道、何でもある診療室の有難さが、しみじみ感じられました。

でも、何もなくても、いつでも笑ってるカオハガンの島民とどちらが幸せなのかを考えさせられました。

今回は、初参加の為、私に余裕がなくただ、みんなについて行くだけで精一杯でしたがまた、参加できるチャンスがあったら、もう少し、いろいろな方向から見ていきたいと思いました。

いろいろと励まし合いながら、温かく活動を共にして下さったチームの皆さん本当に有難うございました。

久保田 敬子 (歯科衛生士)

カオハガン歯科医療ボランティアに参加して！



わたしが海外歯科医療ボランティアに参加したのは、昨年のベトナムに続き2度目だったので、ボランティアでの学びの大きさを知っての参加でした。にも関わらず、カオハガンでのボランティア活動は目から鱗が落ちるような新鮮な学びになりました。

ボランティア＝野戦病院のような忙しさと雰囲気想像していたのですが、以前、澤田先生のお話にあったように島民の方と親しく診療が出来る環境でした。特に、診療に訪れる方々が、当たり前のようにリラックスし

て診療所に来て下さり、言葉も覚えられない私達に信頼を寄せて治療を受けてくださったり、子供達も治療のすぐ近くまで寄って来て興味津々で診療を見学したり、日本語の口真似をして、とても楽しそうでした。治療内容が医療者の押し付けではなく、患者さんの希望を尊重して行われていた事も驚きであり、長年この活動が続けられている底力だと感動しました。

何より嬉しかったのは、島の子供達に保健指導が出来た事と、大人の方々に「ハブラシされる体験」をさせていただけた事です！！この2つは、私がボランティア活動をするにあたって最も大切な将来の為の活動だと考えているからです！カオハガンでさせていただけたことは、私にとって一生の思い出です！！

医療活動以外にも、楽しみはたくさんありました！島の子供達の為に催された映画上映会や、伊藤さんのたこ焼き&綿菓子も楽しかったし、ボランティアクルーによる天体観測会、島民の方々とのお土産購入合戦(価格の取引が面白かった！)、シュノーケリングやシーカヤックもとても癒されました！食事のたびにクルーのみんなと話す何気ない会話も、ほのぼのと暖かく楽しいひと時でした！今回、この全10名のメンバーに恵まれた事も私にとっては替えがたい喜びです！！何といっても運動会は期待以上の楽しさでした！！日本に帰って、たくさんたくさんの人達にこんなに素晴らしい活動がある事を伝えたい気持ちでいっぱいです！！

豊かな大自然が24時間私達を感動させてくれる環境の中でした。風や光、稲妻や雷鳴、星の瞬き、砂の感覚、生活の音、空が時を刻んで移りゆく感覚・・・全てに新鮮な感動を覚えました。

私達がこんなに楽しく充実した活動が出来たのは、澤田先生をはじめJDMのスタッフ、今までに参加されたお一人お一人の参加者、島のオーナー崎山さん(今回、お会い出来ず本当に残念です)、現地滞在員の青木さんなど、多くの方々の積み重ねられた島の人たちの信頼関係や活動のひとつひとつのお陰だと痛烈に感じました。本当にありがとうございました！！

本当にたくさんの方々に支えられた素晴らしい体験をさせて頂きました！本当にありがとうございました！！

垣内 万智子(歯科衛生士)

一生涯の宝物



私は、今回初めて JDM の歯科医療活動に参加させていただきました。初めての参加ということもあり正直すごく不安もありましたが反面、すごく楽しみという部分もありました。それは、活動の中の1つに媒体を使用し子供さん達に歯の大切さを伝える為のお時間をいただけるという事だったからでした。

そして、カオハガンの小学校に行き子供さん達の反応はというと、日本から来たお姉さん達(私が言うのもおこがましいですが・・・)一生懸命に歯の大切さを伝えようとしてくれていると感じてくださったのか、子供さん達の眼差しは真剣そのものでした。

そして、私たちが望んでいる答を子供さんたちは一生懸命答えてくださり、胸が熱くなる思いをしました。本当に感謝の気持ちでいっぱいになりました。そして診療はというと、やはり子供さん達でいうとまだ根が吸収されていない歯が虫歯になり EXT しないといけない。と、今後のこの子供さんの生活を考え EXT と診断しないといけない先生方の想いは苦渋の決断だったと思います。やはりこれは、すごく悲しいものがありました。また、若い方でも永久歯を EXT しないといけない方たちもいました。これは、言葉では書き表すことのできな

いくらい非常に辛く、悲しいことでした。でも、JDM の診療の活動は EXT するだけではなく、保存できる歯牙に対しては軟化牙質を取り CR やセメント充填を施したりもするので、先生方のアシストをさせていただきすごくやりがいもありました。ありがとうございました。

また、23日の最終日のお昼過ぎ頃から島の子供さん達や大人の方を交えての運動会をしました。その種目に赤と白に分かれての玉入れ競争があり、母屋で白いボールに赤のマジックでラインを引いていると島の子供さんがきて、マジックで手を真っ赤に染めながら一緒に手伝ってくれたのです。すごく感激しました。そして、誰が教えたのかわからないのですが THE BOOM の島唄を歌って下さり、子供さんと一緒に歌いながらマジックでボールにラインや絵や文字を書いていきましたが、歌詞にこめられている想いなのか少し複雑な気持ちでしたが、子供さんの心の優しさに目頭が熱くなりました。

また、100近いボールに診療が始まる前に全てに赤い印をつけることが出来ず箱の中に直して診療に出ている間にゲストで来られていた方が手伝ってくださり私たちの午前の診療が終わって母屋に戻ってきたときには全て終わった状態で、私は本当に感謝、感動、感激しました。また、日本では当たり前になっている事がカオハガン島では当たり前ではなく、それはすごく貴重なものであり大切なものだと思われました。あったら便利だけで絶対必要ではないことを・・・

また、カオハガン島の皆さんの優しさや笑顔に触れ、子供さん達のカオハガン島の星空のような澄んだ瞳に出逢えた事で私の人生で最高の宝物が増えました。

最後になりましたが、私は JDM と出逢えた事を心から感謝し、カオハガン島で一緒に活動させていただいた、平田チームリーダー、上崎先生、富田先生、川渕先生、歯科衛生士の佐々木さん、久保田さん、水田さん、木下さん、イベントマスターの伊藤さん、本当にありがとうございました。私は至らない点も多かったと思いますが、この9名の方と一緒に活動が出来た事を心から感謝し誇りに思い光栄です。本当にありがとうございました。最高に幸せです。そして、永遠の平和を祈ります。

宮崎 祥恵 (歯科医師)

「2月フィリピン共和国カオハガン島に参加して」



まず、このJDMに関われたこと、お休みを下さった院長、待っていてくれた日本の患者さんに感謝いたします。

予後が気になって仕方ない。これが歯科医師としての主な感想です。

日本では有り得ない治療を施し、しかも初めての環境でトラブルだらけで、果たしてこれで最善を尽くせたのだろうか？私が処置した歯は、その後痛くないのだろうか？？

あの患者さんは大丈夫だったのかな？あんなことしてごめんなさい・・・

こんなことを夜な夜な考えて、頭は毎日反省会でした。

単発、年二回しか出来ない治療法というのは特殊で、人間の免疫力、自然治癒力をフル利用したものでした。私達日本人と違い、彼らのヒーリングパワーは素晴らしく、環境や人種によってこんなに変化するものかと驚かされました。

ボランティアに興味はあったものの、数年前まで、歯医者是在駐するのがベストだと頭だけで考えていて、ずっと行

動に移せなかった小さい私がありました。在駐なんて事はなかなか出来るわけなく、理想と現実とのギャップに頭がど
んどんこんがらがって行って、行政のあり方とか、保険制度の仕組みとか、貧困について、教育について、戦争につ
いて…果てしなく続く問題に、自分は偉い人でも凄い人でも何でも無いのに、もうどうしていいか解からなくなって、
ショートして出てきた答えが LOVE IS ALL。

数あるボランティア団体の中で、私がJDMを選んだのは、島民の自立を心から願っていて、そこに愛を感じたからで
す。そんな気持ちで参加させて頂いた第1回目でした。メンバーの方達も島民の皆さんも、目がとってもキレイで、キ
ラキラしていて、ここでもまた、ああ、こんな私でごめんなさい…と思ってしまいました。

帰国しても、頭は8割カオハガンです。悔しい思いや、辛い思い、自分への蔑み、マイナスの感情もありましたが、楽
しいこと、嬉しいこともいっぱいありました。懐っこい笑顔の子供達、美しい海、わんこ、美味しいご飯、ちょっとうるさか
った鶏、志高い人たちとの出会い。治療し尽くせてないし、遊び尽くせてないし、いい意味でもやりきった感がありま
せん。また行きたいなあ、と思わずにはいられません。達成感を目指して、今後も活動に参加したいです。その時は
またご指導宜しく願いいたします。

本当に、いっぱいありがとうございました。

栗生 茉莉恵 (歯科医師)

2009年2月カオハガン島での活動に参加して



歯科医療が十分でない地域での歯科ボランティアは、学生の頃からの夢でした。

しかし、出発前は、臨床経験が少なく英語も話せない私が、日本とは全く状況の違う土地で役に立てるのか、足を引っ張ってしまうのではないかと不安でいっぱいでした。

正直、例えば自分が診療できなくても、他の Dr. のアシストをしていれば何とかできるだろうと気楽に考えていたところもありました。

初日の午前中は、自分で手を下すのが怖くて時間ばかりが過ぎていき、ときばきと仕事をこなす他のメンバーの姿を横目に、自分は歯科医師であるという

自覚の薄さと責任感の無さにがっかりしました。

栗生 茉莉恵さん (左側)

教会に場所を移して、診療できるスペースが増えると、私はできないから…なんて甘い事を言っている状況では無くなり、とりあえずやってみようという勇気がわきました。

それから最終日まで、先輩 Dr. や DH さん、ボランティアさん、島民の方々に助けていただきながら、楽しく診療することができました。

メンバー全員がカオハガンの島民の口腔内をより良くしたい、1本でも多く子供達の歯を残したいと想いを一つにして、活動した3日間だったと思います。

カオハガンでの経験は、全てが素晴らしく感動的でした。カオハガンの子供達の笑顔は、日本で仕事の励みになっています。JDM のメンバーや島民と出会えたこと、みなさんと一緒に活動できた事、今回の参加を理解し応援してくれた家族に、心から感謝しています。本当にありがとうございました。そして、これからもよろしくお願いします。



伊藤 美佳さん (左側)

とても充実し、色々な経験や考えが凝縮された 5 泊 6 日間だった。まさに頭と心をつかい、そして精一杯体を動かして生きたという体験だった。

島での生活は全く異文化体験といった感じで、新鮮で楽しかった。寝泊りしたバンガローでは、室内でも風が吹き抜けているのに驚いた。強風の夜には、風に髪の毛をなびかせながら、ダウンジャケットを着て眠ったのもいい思い出である。まるで麦藁帽子の中にいるようで、眠れないのではないかと心配したものの、日中の活動疲れからか、毎日ぐっすり眠って朝はヤモリの鳴き声で飛び起きるという生活だった。ヤモリと鶏のアラームで目覚め、夜は

気合を入れてから冷たいシャワーを浴び、トイレが流れるかを心配しながら用を足す…そんな日本では考えられない生活がただ新鮮で、仲間と笑いながら分かち合えたことが、島で過ごした時間をより一層、輝かせてくれた。また、島民の温かい対応が嬉しかった。言葉が通じなくても気持ちがあれば伝わるということを肌で感じる事ができた。そして、人懐っこい子供たちが元気いっぱい遊び、私の名前を呼びながら遠くから駆け寄ってくると、なんとも心が温かくなって思わず笑顔がこぼれてしまう。温かなこの島とこの島に暮らす人々が大好きになった。

参加して、明るくやる気に溢れるメンバーに出会えたことが、貴重な財産となった。全く初めての世界に戸惑い、縮こまっていた私にも優しく声を掛けてくれた。すんなりとメンバーの一員として受け入れてくれたことが、本当に嬉しく、安心することができた。おかげで笑いの耐えない 6 日間となった。

そして何より胸に響いたのは、最後のミーティングで参加メンバー全員が述べた、それぞれの参加した動機や感想だった。歯科医がいない島に暮らす「島民の歯の治療を行う」という大きな一つの目的の下に集まったメンバーだが、それぞれに自分の中の目標や動機をもって参加していることを知った。だからこそ、どんな場面でも逃げ出さずに踏ん張って、時には仲間の助けを借り協力しながら、やり遂げられるのだと思った。治療が思うように進まないときには、患者を気遣って「ごめんね」と繰り返しながら処置を続け、無事治療が終わると患者と一緒に安堵する。私に手伝えることはほんの限られているけれども、そういった経験を共有できて、嬉しかった。歯科医や衛生士はそれぞれ、患者を通して、自分と向き合っているのだと感じた。一人一人の意識が高いスペシャリストが集うチームの一員としてそういった場面に立ち会えて、何度も胸が熱くなった。

運動会では、他のボランティアメンバーと準備を進めながらもどういったものかあまり想像がつかずに楽しみでもあり、不安でもあった。旗をつくり、鉢巻きを並べ、綱を用意していると次第に気分が高まって小学生の時のようにわくわくした気持ちでいっぱいになった。進行役も努めなければと気負う私たちに、他のメンバーが「思うようにきっちりなんていかない、でもなんとかなるもんだよ」と背中を押してくれた。この言葉がここでの生活を象徴していると思う。神経質にきっちり体裁を整えることよりも大意を捉えて流れることが大切で、人間らしいのだと心に沁みた。実際、運動会ではんやわんやの大盛り上がりの中、島民も喜んでくれる形で大成功に終わった。

一つお願いしたいと思ったことは、ボランティアとして参加し、歯や衛生管理に関して全く知識がないので事前説明会の際にでも、少しでも説明していただいということである。現地では、全員が忙しく、聞きに行く余裕が見つけられないときがある。気がついた医師や衛生士がいくつかアドバイスをくれて、とても助かった。なので、事前に少し説明や手順を聞いていれば、もっと役に立てたのではないかと感じた。その場で臨機応変に対応することを前提として、

注射針のスムーズなはずし方(針を注射器に刺す際は両手のどこかを押し当て固定し、ぶれないようにすると良いなどのアドバイスをいただいた)や消毒液につける時間など前以て聞かせてもらうのも今後の活動に有効だと思う。

何もかもが珍しく、貴重な生活だった。今回の経験を通して、それぞれが自分の持ち場を守ること、周囲を見渡し自分にできることはないかと探すことを学んだ。また、遊ぶときは遊び全力で楽しむ、治療やミーティングの話になると真剣に取り組むという切替えの素早いメンバーを見て、切替えの大切さを改めて感じた。また今回の体験を楽しかったで終わらせることなく、この体験を通して感じたことや考えたことを自分の中でしっかり整理し培っていききたい。そしてまた、あの大きな海に囲まれた島に戻って、自分は前に進めているか、自分の歩みは間違っていないかを確かめたい。島の子供たちの成長とともに、自分の成長も感じられるように、これからも日本での生活を大切に過ごしていきたい。前向きにそう思うことができた本当に貴重な時間だった。

温かく迎え入れ、いつも快く協力してくださったみなさんに心から感謝しています。本当にありがとうございました。

追伸・ナナさんへ

次回以降にあると便利だなと感じたものを思いつきました。

グラスホルダーのようなものがあれば、便利かと思います。百均などで売っていて、大きなクリップなどで挟み、コップを固定できるようなものです。診療の椅子の肘当てなどに固定し、紙コップを置くことが出来たら、助手や患者本人がうがい用の紙コップをずっと持ち続ける必要がなくなり助かるのではないかと思います。ご検討お願いします。

沖 成美(ボランティア)

2009年2月 フィリピン共和国

感想文



今回2月10日～2月15日のJDMの活動に参加させていただいて。

今回この活動に参加することになったのは、自らの意思ではありませんでした。父が澤田先生と知り合いで、良い経験になるからと言われ参加することになりました。

自分自身、海外への旅行も初めてで、ボランティア活動もこんなにしっかりとしたのは初めてで、全てにおいて初めてなことばかりでした。

10日の関西空港までの道のりは、自分に何ができるのか、JDMのスタッフの方々に迷惑をかけてしまうのではないかと、そういった不安と、初めての海外

外などへの期待が入り混じった複雑な気持ちでいっぱいでした。

はじめてセブ島に到着して、船でカオハガンへ向かっている時、景色が日本とは違いカオハガンへ行くのが楽しみになり、不安も少しずつ減り期待でウズウズしてきました。

活動までにはミーティングやカルテの書き方講座などをしてもらい活動に備えていたのですが、いざ活動にはいると何をしたいのか、何に触れていいのか、手持ち無沙汰になって何かしたいのに、周りを見ても何をしたいかわからなく苛々することもあったり、周りのスタッフの人は自分のやることをしっかりとこなしており、自分はここにいていいのだろうか、など不安に思うことが多かったです。

ただのボランティアと言えども、何かしらすることができると思ってカオハガンへ向かったものの、自分の無力さにとっても悲しくなりました。

でも、そんな不安に思っているとき島民と人たちと挨拶をしたり、島の子供たちと挨拶してみたり、言葉が伝わらな

いながらも触れ合ったり、遊んだりしているうちに、また明日頑張ろうと元気をもらう事ができました。

無力で何もすることができなくても、自分なりに誰かのためにできることを見つけていこう、島の人たちから元気をもらった分、何かでお返しをしていこう、と思いました。

日本にいる時は、身近な人や知り合いの人としか挨拶を交わしたりしないのに、カオハガンに来るとこんな自然に挨拶したり遊んだりできると言う事にすごく驚き、嬉しくなりました。

学校検診にも参加させてもらい、子供たちの TBI をしていて自分が思っていた以上に子供たちの歯がきれいですごくびっくりしました。それもこの何年間の JDM の活動があって、カオハガンの島民の意識とかの変化によるものなんだなと実感しました。

活動とは別に、カオハガンの人たちとの運動会では、たくさんの島の人たちと触れ合えてすごく楽しかったです。最初は皆参加してくれるかな、とか心配に思ったりもしたけど、島の人たちも、ボランティアツアーに来ていた人たちも、自分たちもすごく楽しめて、こんな交流をもっともっと思いしました。

今回の JDM の活動に参加してみて、人との出会いにとっても感動しました。

普段自分が出会う人たちはあまりにも身近なものばかりで今回のように全く見ず知らずの人の中に入ってこの活動に参加したのや、また空港でたまたま出会った平松さんや、後からカオハガンへやってきたボランティアツアーの人たちにも出会えました。また、こうやって全く見ず知らずの人たちが会って、そして協力し合って、お互いに刺激し合い、誰かのために動く。そういうことが日本にいると簡単にはできないのに、カオハガンに来て、誰かと協力してカオハガンの人たちのために動けたことがすごく自分にとってプラスになったと思います。さっきも言ったとおり、自分がカオハガンの人たちに何かしてあげれたかどうかは別として、そういった活動を通して、自分自身逆に得たものが多いと思います。人との出会い、誰かのために何かをしたい、そういうのをこれからも大切にしていきたいと思います。

今回のカオハガンでは晴れた空を見れなかったのは残念だったけど、島の子供たちに出会って、めったにできない経験をさせてもらって、子供や島の人たちから元気をもらって、自分の中ではつらい事もあったけど、全てをひくくめて自分にとってこれから先、もう経験できないのではないかなと思うくらい良い経験をさせてもらいました。

この JDM に参加したきっかけは、良いものではなかったけど、参加した今は本当に参加してよかったと思います。

JDM のメンバーや参加させてくれた父やカオハガンの人たちや出会った人たちに、とても感謝しています。

本当にありがとうございました。

谷岡 悠(ボランティア)

『いろいろ初めて。』



初めての海外旅行で初海外ボランティア。出発日も朝5時起きというのも合間って前日からドキドキでした。

とりあえず、初空港。皆さんから離れたら置いていかれると思い、先生方に必死で引っ付いて行ったのを覚えています。マニラからセブの飛行機の窓から見下ろした夕焼け。とてもキレーって一人盛り上がってました。

ジョー先生に島でなんぼでも見れるで、と教えていただいたものの、結果的には島にいる全日程は全て曇り時々雨。行きの飛行機から見た夕焼け以外、島の海岸のドラムカン風呂から見れる極彩色の夕焼けは見れなかったのである…。

一夜明けて、活動一日目、二日目。

言葉も英語が少しと単語のビサヤ語。後は気合いとジェスチャ。ゆっくりと朝食を食べ作業開始。村の人達もいつもの事で馴れているらしく、カルテに書かれた名前を見て『次、誰々〜！』っと、助けてくださる。昼食の後は教会に戻って作業。また村の子供達との交流。全く言葉通じないし...と不安定やったけども、なんの子供達が歌、歌ってこないするんやってジェスチャ。教えてもらった歌、歌いながらジェスチャで教えてもらったように体を動かし。お尻タッチが日本で言う鬼ごっこなんかな？そんなんで追いかけてまわったり、女の子へのお尻タッチはセクハラか？と悩んだり。また女の子たちは サンドル一個で投げたり転がしたりで一人障害物レースみたいなのをしていたのに、器用だと少し感動しました。島の子供達と仲良くなったら僕の名札をとり、ローマ字を一生懸命読んでくれて呼んでくれたのに凄く感動。でも微妙に違うから『タニオカ』って言ったんだけどこれまた発音が微妙に違う。でもとても嬉しい事でした。

三日目は学校検診。

学校へ赴き子供達の歯をチェックです。赤くなる液体を歯に付け鏡を持たせ歯磨き！と言って海に行かせ歯を磨かせるってものだったのだけど。海に入り歯を磨き終わった子は見せに来てくれます。まだここが残っているよーと、鏡を見せながら再び磨いてもらった。一部の子供達は...逃げる。逃げる。追いかけたら逃げる。仕方ないので終わったよーと知らせ学校へもどり、歯科検診開始。カルテを書くのがまだ不安ありつつ、無事こなせて、よかったです。ほとんどの子供が治療必要で小林先生のかわいい声で『Go to Church』と言った声が今でも頭に残っています。でも毎回歯磨きをしている子達は虫歯もほぼなく白い永久歯が虫歯にならずに出ていて。今まで見て来たのとは全然違い嬉しく思いました。

四日目は運動会ー！子供達もきっちり？並んでくれたしよかった！綱引きなんて小学生ぶり。必死で綱引きさせていただきました。

あっと、言う間の日々でした...。本当に...毎晩の晩酌もとても楽しかったです。

タイミングが出来次第是非また参加させていただきたいです！



八尾西山本小学校とラナケル小学校との国際交流

ヴァヌアツと八尾西山本小学校との国際交流の架け橋ができて3年目の夏となる。2006年より始まり、最初は日本の子供の描いた墨絵をラナケル小学校に持って行き、墨という日本の文化を知ってもらい、ヴァヌアツの子供達の描いた絵を持ち帰ることで文化交流をしようという試みであった。物が無いヴァヌアツで絵を描くということは簡単ではない。鉛筆は一本を三等分に切って3人で使っているという現実。JDMは会員全員で助け合う団体です。画用紙は「アベ・ラベリング」様、絵の具は「㈱サクラクレパス」様よりのご寄付で、子供達は笑顔で絵を描く事ができた。鉛筆は「㈱トキワ」様より毎年沢山のご寄付を頂き、これも年間約1000人もの子供達に手渡している。

2年目は白無地の鯉のぼりに絵を描いて交換した。これも園山春二様より布をご寄付頂いて完成させた。それぞれの国の小学校に交換した鯉のぼりが同じ地球の青い空にはためき、ひるがえった。

2008年の夏は西山本小学校の生徒が作成した手描きの凧50枚を持って行った。ヴァヌアツでは凧揚げは初めての経験であり大変興味を持ってみんなで凧を揚げた。



生徒より必死に凧を揚げるラナケル小学校の校長先生

無地の凧50枚を渡し、早速授業で凧に絵を描いて頂き、帰国後、西山本小学校に届けた。



文化交流は絵だけに留まらず、西山本小学校の生徒がリコーダーで演奏した。ヴァヌアツ国歌「ユーミン」をラナケル小学校の生徒が歌ってコラボレーションを行った。聴いているととてもマッチングしていて感動を覚えた。西山本小学校の生徒が英語とローマ字で作ったカルタをラナケル幼稚園にプレゼントし、カルタを使って授業を行った、園児はカルタの絵を一生懸命探して授業に熱が入っていた、

ヴァヌアツ共和国との文化交流から学ぶ 平成 20 年度 国際理解教育 実践報告 (5 年)

八尾市立西山本小学校
教諭 津崎 恵子

目標

- ・ヴァヌアツ共和国の子供たちと絵画等の交流することによって親交を深める。
- ・ヴァヌアツ共和国のことを深く理解することによって、互いを知り、自分を知る。
- ・不便であるが豊かな自然の中で暮らす人々の心の豊かさを知る。
- ・ゲストティーチャーの澤田先生の医療ボランティア活動や青少年育成事業などから「生き方」を学ぶ。

20年度の取り組み状況

- ・ 5 月 ヴァヌアツへ送る凧の絵を描く。
- ・ 6 月 澤田先生の授業（第 1 回目）
ヴァヌアツ共和国の様子やボランティア活動
についての授業（パソコン映像）
虫歯予防の日になんで澤田先生から全校児童
に歯ブラシがプレゼントされる。



澤田先生の授業を受けて・・・学級通信「おおぞら」№10

先週、歯科医師の澤田先生が、ヴァヌアツ共和国の様子やボランティア活動についての授業をして下さいました。ふれあいルームに 5 年生全員が集まり、パソコンの映像を見ながら先生のお話を興味深く聞きました。先生のお話は子供達にとって驚きの連続でした。さて、どんな感想を持ったのでしょうか・・・。

今日、4 時間目の授業をうけてヴァヌアツのことがよくわかりました。ぼくは、ヴァヌアツのバンジージャンプはやりたくないです。おくびょう者といわれてもやりたくないです。だってゴムじゃなく木のつるだから切れたら死ぬからいやです。だけどヴァヌアツの人は、やっているからすごいなあと思いました。一度だけヴァヌアツのお料理を食べたいです。ヴァヌアツにもお菓子があることもわかりました。ヴァヌアツの人みたいに虫歯にならないようにちゃんとご飯を食べたら歯を磨くようにします。一回でもヴァヌアツに行きたいです。ヴァヌアツの人が凧に絵を描いてくれてその凧が学校に届くのが楽しみです。ヴァヌアツの人たちの髪の毛はちりちりで鉛筆がさせるから便利だな～と思いました。今日はヴァヌアツのことを教えてくれてありがとうございました。歯ブラシもありがとうございました。（男子）



澤田先生はヴァヌアツとフィリピンの二つの国へ行ってらっしゃると知りました。今回初めてヴァヌアツのことを教わりました。フィリピンは聞いたことがありますが、先生のように深くは知りません。だからあまり分からなかったのですが、先生に教えてもらったのでよくわかりました。

二つの国へ行ってらっしゃるのはすごいし、うらやましいです。幸せな国で、幸せな時間を過ごせる、素晴らしいことだと思います。それに、歯の治療をして人を救うなんて、素晴らしいと思います。わたしも少し手伝いたいと思いました。一番幸せな国だと思うところ、それは先生が見せてくれた数々の写真の中にありました。ヴァヌアツの子供達の笑顔です。どの写真も、どの子供達も嬉しそうな顔をしていました。でも最近地球温暖化のせいで、島が沈んできていると知りました。ヴァヌアツの人々は何もしていないのかかわいそうだと思います。(女子)

ヴァヌアツの子供達との交流、澤田先生との交流が今後も続きます。

この取り組みを通じて子供達はどのようなことを考え、何を学んでいくのか……。単なる興味本位に終わることのないようきちっと取り組ませたいと考えています。

- ・ 7 月 八尾市教育研究集会で発表
- ・ 10 月 澤田先生の授業（第 2 回目）凧揚げ大会・・・次の交流内容を考え始める。

DVD（7 月のヴァヌアツでの医療ボランティア活動やラナケル小学校の子供たちの様子）を用いて授業。現地の子供たちが、凧に絵を描いたり凧を揚げたりしている様子を見る。

午後、ヴァヌアツから届いた凧で、先生と支援学級の子供たちと共に凧揚げ大会をする。



ヴァヌアツ・ラナケル小学校での凧揚げ風景



西山本小学校での凧揚げ風景

「ヴァヌアツのことをもっと知ろう」・・・学級通信「おおぞら」№20
澤田先生の 2 回目の授業が行われました。澤田先生は子供たちが大好きでこの日を楽しみにしておられたようです。スクリーンに映し出された現地での医療活動や子供たちが描いて送った凧を楽しそうに揚げている様子を見て「あの凧、〇〇君がかいた凧や！」と叫びながら、確かに遥かかなたのヴァヌアツに届けていただいた！という実感がわいてきたようでした。また、世界で一番近づく



火山の迫力ある噴火の様子に子供達は「ウウォ〜ッ！」と

腹の底から歓声をあげ一心に見入っていました。コバルトブルーのかわいい熱帯魚も魅力的でした。この間、



子供たちはきっとヴァヌアツに身をおいて大自然を楽しんでいたのではないのでしょうか。「ヴァヌアツに行ってみたいか？」という澤田先生の問いかけに「行きたい！行きたい！」の行きたいコールが続きました。

遠い遠いまだ見ぬ国「ヴァヌアツ」へ
私も子供たちと行ってみたいと思いました。

前回同様、澤田先生を囲んでのランチタイム。

食事を共にするというのはほんとにいいですね。

仲良しになる絶好の機会です。子供たちと澤田先生との距離がさらに縮まり楽しく過ごすことができました。
午後からはいよいよ風揚げです。



澤田先生を囲んでみんなで記念撮影をパチリ！

ヴァヌアツの子供たちが絵を描いてくれた風を思いっきり高く飛ばしました。わかば学級の子供たちも一緒です。風も少し吹いてまずまずの条件でした。「風揚げなんてほんまに久し振りや。」と、はじめは戸惑っていた子供たちもコツをおもいだしてきたのか、運動場いっぱい走りまわり高さを競い合っていました。夢中になりすぎて周りが見えず糸が絡まるといったアクシデントもありましたが、ほんとに楽しそうで、今回の文化交流も子供たちにとって思い出深いものになったのではないかと思います。

・ 11 月 日曜参観でヴァヌアツのことについての授業を行う。(16 日)

澤田先生のボランティアの記事(28 ページ毎日新聞)を使っの授業(21 日)

ミニ感想を書き先生への手紙として送る。

あっ！澤田先生が載ってる！！

21 日付の毎日新聞大阪版に「感動を与え合い、自分を磨く場」というタイトルで、ノンフィクション作家の目を通しての澤田先生のヴァヌアツ・フィリピンでのボランティア医療活動が紹介されていました。早速この記事を印刷して子供たちに配り、ショートタイムの授業をしました。ヴァヌアツの子供たちと交流の橋渡しをして下さる澤田先生ってどんな人なの？学期に 1 回の出張授業でお会いするだけ。給食も共にしますが本来はどのような医療ボランティア活動をしているのか……。今回の新聞記事を教材に、澤田先生の思いや生き方をみんなで考えてみました。子供たちは静かに真剣に記事を読みすすめ、先生の言葉に驚い

たり感動したり・・・。

- 澤田先生はヴァヌアツの人を本当に愛しているような気持ちが伝わりました。
- 4 回も死にそうな思いをしたから、ボランティア活動をするようになったときいてびっくりしました。
- ヴァヌアツやフィリピンで治療を続ける先生にすごくあこがれます。先生のようにになりたい。
- 前に聞いた話以外のことを新聞で読み、ヴァヌアツの人や澤田先生についてもっと知ることができました。
- ヴァヌアツでの医療ボランティアはふつうと思ってたけど記事をみてよほどすごいことだと思いました。
- 澤田先生はカッコいいと思いました。自分もヴァヌアツへ行きたいです。
- 最後の澤田先生のセリフ「人と人との関係で大切なことはお互いに感動を与えあうこと」に感動した。
- 私も大人になったら子供や困っている人を助けたいです。
- 澤田先生が帰るとき、島民は泣いて見送ってくれるっていいなぁと思いました。
- 死にそうになって、人のために頑張ろうと思う先生の姿に感動しました。特別な技術や資格がなくても、その気になれば、他の人を救うことができると思うと、澤田先生たちはすごいなぁと思いました。
- 澤田先生はとても苦しい思いをしているのにヴァヌアツの人々を助けるということにとっても感動しました。
- 記事を読んで感動したことは、お互いに感動を与えあうことと、自然に涙が出て、また来たいという気持ちになる、この二つです。
- これからも、体力が限界になるまでがんばってください。
- 25 年くらい前からヴァヌアツに訪問していると知り、おどろきました。フィリピンにも行っていて大変だろうと思います。その大変なかで、この西山本小学校に来ていただいている澤田先生にはとても感謝しています。三学期、先生のお話を聞くのを楽しみにしています。

以上は子供たちの一言感想です。いつも言っていますように、「交流」が単なる手紙や物の交換だけに終わることなく、そこにかかわっている人々の思いや生き方を学ばなければ、子供たちの心を耕すことにはならないような気がします。これから思春期を迎える子供たちには、「一生懸命」生きている人達を身近に感じさせることによって、これからの自分の生き方について考える「栄養剤」であっていいなと考えています。そして、作文や感想文の中だけで素晴らしい言葉を並べるだけでなく「本物」の人権感覚をしっかりと身に付け、常に、自分はどうかあるべきか・・・ということを考えられる子になってほしいと願っています。



21 年

・1 月 澤田先生の授業（第 3 回目）保護者も参加

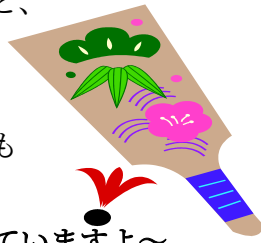
今年度のまとめの授業として、特に青少年育成にかかわるヴァヌアツでのボランティア活動について話を聞く。

ボランティア活動に参加した青年の感想文を通して「私たちにとって大切なことはなんだろう？」を考えていく。

学級通信「おおぞら」№29

第 3 回目の澤田先生の授業が行われました。今回は今までのような、美しいヴァヌアツの映像は無です。今回のお話は子供たちには少し難しいかなと思いましたが、敢えてこのテーマにさせていただきました。中学生の時ひきこもりになり高校も入学したものの 1 年生の 2 学期で中退し、目的もなくゲームに心のよりどころを求めていた「新井さん」の体験談が教材でした。新井さんが、何となくヴァヌアツのボランティア活動に参加することとなり、澤田先生らと共に 10 日間を現地で過ごす中で次第に自分の意識が変わっていく・・・。帰国してからは、自分には仲間がいること、自分は生かされていることなどに気づき音楽大学に合格するま

でのことを、新井さん自ら書いた文から学びました。
子供たちの書いた感想文はなかなか読みごたえのあるもので
近々これを澤田先生にお渡しする予定です。
今は難しいかもしれないけれどいつかきっと、
こういう授業の中の一つでも
「ああ、こういうことやってんなあ。」
と思いだしてくれることを信じてこれからも
頑張ろうと思います。



今、ヴァヌアツへ送る羽子板の絵を描いていますよ〜。

1月28日の澤田先生の授業から・・・。

子供の感想

その① 澤田先生が来ました。あの作文を聞いていると、感動しました。ぼくはいじめにあっていませんが、家では勉強ばかりで勉強をやめてゲームをしたいときもあります。だからぼくは、あの作文を書いた人の気持ちがわかります。やっぱり友達は大事だと改めて思いました。自然の中で生かされ、自分一人で生きず支え合って助け合いながら、みんなと生きていくことが大切だということもわかりました。新井さんは最後、大学までいったのすごいなと思いました。ぼくも、新井さんみたいに努力して、いい学校に行きたいです。ぼくも、この先いじめに合いそうな人間ですが、いじめに負けない精神をもちたいです。人は誰かに支えられているから「人」になる。これを心に深くとめておきたいです。ぼくもボランティアで、ヴァヌアツにさらに行きたくなりました。ヴァヌアツで10日間、自然の中で生かされているということを実感したいです。郷に入ったら郷に従え、ヴァヌアツに行ったらヴァヌアツの人たちと同じようなことをしろ。これもぼくの心にとめておきたいです。ぼくのためにも、ヴァヌアツの人のためにも、仲良く親切にしたいです。

その② お忙しい中わざわざ学校まで来てくださり、ありがとうございました。今日まで首を長くして待っていました。新井さんの、いじめから立ち直ったという話に感動しました。ボランティア活動をすることにより、今までより明るくなったこと。それも不思議でした。澤田先生がおっしゃった「人はおたがい支え合って生きている。」その言葉は今も心にひびくようです。スポーツをするにも何をするにも、支え合うことはとても大切です。今、ニュースでもいじめのことが多く取り上げられています。いじめなどをしない。そして負けない。それができればいいと思います。新聞にも「いじめのなやみ」のらんがたくさんあります。いじめは絶対いけないことをみんなが分かればいいと思っています。ヴァヌアツが世界で一番幸せな国に選ばれた理由、それは、貧しくて不便でもそれに負けず、一人ひとりすばらしい笑顔があるからだと思います。澤田先生のおっしゃった言葉を忘れずにいたいと強く思いました。

保護者の感想

ヴァヌアツ共和国の学習は、子供に聞かされていたので、以前から興味を持っていました。澤田先生の活動内容を気軽な気持ちで聞きに行ったつもりでしたが、心に響く話は、帰宅後もいろいろ考えさせられました。お話を聞くまでは、ボランティア活動とは非日常的な事、今の自分にはやる時間もないし能力もないと考えていました。しかし、一人ひとりが必要とされ、「生かされている」という言葉の真意を知り、澤田先生のような海外活動でなくても、必要とされている場が身近にあり、その為にも自分が存在する意味があるのかなあ…と考える事ができました。それに、話しに来て下さった澤田先生、機会を設けて頂いた担任の先生方、

参加した自分。これも話にあった人とつながる大切さの証だと思いました。現にこの切っ掛けで私の意識が変わったのですから…。子供に今回の話を聞いても、深くは考えてませんが、いつか思い出し、伝えることを信じたいと思います。そして、今は私がこのことを意識して日々を過ごしていけたらと思っています。澤田先生の活動は今後もホームページを見て、応援していきたいです。今回は、お話を聞かせて頂き、ありがとうございました。

・2月 羽子板に絵を描く（来年度の取り組みにつなげて）



20年度を振り返って

本学年の子供たちには「生き方」を考える、という大きな課題については、少し難しかったかも知れない。しかし、いろんな形でアプローチをしながら子供の心を耕していきたいと思っている。心の持ち方、相手を思いやる気持ち、周りの人たちへの感謝……。今、自分が生かされているのだということを、ヴァヌアツの人々や澤田先生との交流を通して、少しでも気づき心の財産になってくれればと願っている。最後に、本校にこのような素晴らしい交流の機会を与えてくださった澤田先生に心より感謝を申し上げたい。



「ヴァヌアツ、フィリピンで歯の治療」

子どもころ、虫歯に悩んだ。針で歯を削るような歯痛は経験者として分かるまい。在日朝鮮人には健康保険などない時代だったが、なんとかカネを工面して治療した。が、もし歯科医に行くとどうでなかっただろう……。

NPO法人ジャパンデンタルミッション



「ヴァヌアツ」で歯の治療

同時に、歯痛の中から白い光が輝き、嫌のように体の痙攣が治ったんです。2カ月前、病院のベッドに縛り付けられた状態で、「なぜこんなことをしているのか」と自問自答した末、医者になり世のため人のために尽くすのが自分に与えられた使命だと悟ったという。

83年、ヨットで世界一周した友人から、ヴァヌアツには誰も歯も無い人が多いと聞き、訪問した。子どもヴァヌアツは虫歯の治療

感動を与え合い、自分を磨く場

行っているのがNPO法人「ジャパンデンタルミッション」(JDM)である。代表理事の榎田久美さん(60)は心斎橋で歯科を営む歯科医。なぜこの活動を始めただのかという問いに対し、「ほくは臨死体験を4度経験しました。だから自分のために生きるのではなく、人のためになるように生かされているんです」という答えが返ってきた。

1度目は野暮にはまり、2度目は汽車にひかれかかり、3度目は池でおぼれた。4度目は大阪歯科大学一年生の夏、海に飛び込んだとき、歯が歯槽の砂にめり込み、顎関節症で全身が痙攣した。

「死ぬ一歩手前になったとき、ハッキリ神の啓示を聞いたんです。『ここで死ぬな。この世の中にあることとがあるから生きる』。と

そして83年にJDMを設立し、毎年ヴァヌアツとフィリピンで、3回ずつ治療活動を行っている。毎回歯科医、技士、衛生士、一般ボランティアなど十数人のチームを組み、約1週間現地に出張する。

ヴァヌアツの場合、中心部にある病院を拠点とする診療チームと島々を回る巡回チームに分かれて活動する。子どもから大人まで続々と詰めかけてくる。シャングルをり、長時間も歩いて来る者もいれば、泊まり込みで来る者もいる。技術、充填、義歯など、休む間



「愛国魂」文学館(ハナチカ)から「福」イラスト・榎田

らの歯の痛みもなく治療が済む。『マスクをした島民がいましてね。右目の下に傷がありました。それは、八重歯が化膿してあまりにも痛

いから、自分で歯をつけたんです。歯を抜いたら、ドッという音がしましたね。』同国の厚生省・文部省と協力し、歯を守るための啓蒙活動も行う。小学生全員に配るため3万8000本の歯ブラシを寄贈した。

「人と人の関係で大切なことは、お互いに感動を与え合うことだと思っています。帰るとき、島民たちが泣きながら手を振ってくれると、ほくも自然に涙が出て、また来たいという気持ち

地球村に架ける橋

〒542-0005 大阪市中央区心斎橋筋1-5-29 心斎橋コアビル 榎田歯科内 電話・06-6252-0118

ホームページ＝<http://www5.ocn.ne.jp/jdm/pc-top.htm>

ノンフィクション作家

高賛侑

国内活動

- 2008年7月31日(木) JDM主催でヴァヌアツのYAOH氏の「さよならパーティー」を行う。
- 2008年10月15日(水) 八尾市立西山本小学校においてDVD(7月のヴァヌアツでの医療奉仕活動、ラナケル小学校の文化交流の様子)を用いて授業を行う。その後、ヴァヌアツから届いた凧で凧揚げ大会をする。
- 2008年11月21日(金) 毎日新聞朝刊、大阪版「地球に架ける橋」のコーナーで、NPO法人ジャパンデンタルミッションのヴァヌアツ、フィリピンにおける歯の治療を紹介。
- 2008年11月25日(火) 関西学院中学部において、ヴァヌアツでの医療活動について講演。
- 2009年1月21日(水) 異業種の会、弥生会において、ヴァヌアツ、フィリピンでのボランティア活動について講演。
- 2009年1月28日(水) 八尾市立西山本小学校で保護者も参加の授業を行う。青少年育成にかかわるヴァヌアツでのボランティア活動についての話を行う。
- 2009年2月9日(月) 大阪船場ロータリークラブ国際奉仕フォーラムにおいて、ボランティア参加の沖成美さんがフィリピン、カオハガン島での活動報告を行う。
- 2009年2月26日(木) 大阪市立開平小学校、社会見学において生徒6名、先生1名が澤田歯科を訪問。歯科医療の現状と海外での医療奉仕活動についての授業を行う。
- 2009年3月18日(水) 八尾市立西山本小学校の卒業式に沢田代表が出席。

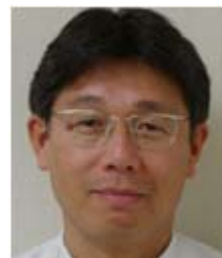


開平小学校の生徒対象の授業風景

学術報告

報告:吉竹 弘行

まず1つめの「カルテの分析」という我々学術担当者が言い続けてきているテーマですが、昨年の報告書に記載させて頂いた、所謂“芳しくない状況”から、ようやく抜け出せる道筋が見えて参りました。昨年度は理事会においても、この問題が何度となく議論がなされ、現場におけるカルテ記載の問題点等々、具体的な事象を解決する事が出来たと思っています。これまでのデータの入力も順調に進むようになりましたので、来年度の報告書には何らかの形で皆様方に多少はアカデミック？な文章をごらん頂けるかと思っています。



次に2008年度より始めた、歯科医療に関する、実習を含めたヴァヌアツ共和国における啓発活動ですが、1回目の昨年9月は、思ったよりも好評だったように聞いております。会場や費用等、いろいろな問題点は今後、現地と相談しながら解決して行かなければなりません、方向性としては間違っていなかったようです。昨年は4時間半程の時間を費やして、昨年度の報告書に記載通りの内容を下記のようなタイムスケジュールで行って参りました。

歯牙 歯周組織の解剖 30分

口腔内の細菌 30分

感染症としての齲蝕と歯周病の病因論 60分

その治療方法 60分

その予防としての歯ブラシの使い方(実習) 30分

途中休憩をはさみ、最後に実習を行いました、最後の質疑応答では、想像をこえる質問が次々になされ、予定時間を30分程超過してしまった位でした。

2009年度は、6月14日に出発しますが、昨年とは少し趣向を変えて、実習に主眼を置いた形での啓発活動を企画しています。その為参加者を2班に分け、2日間に渡っての活動を考えており、会場もメラネシアンホテルのボウルルームを予定しています。いずれにしても上記2つを柱に活動を展開していく予定をしておりますので、今後とも皆様方のご理解、ご協力をお願いいたします。



フィリピン・カオハガン島 追跡調査報告

衛生士 大西 富子

カオハガン島の小学生15名を対象に選び、問診・歯科検診・食事調査・日常の歯磨き状態などの追跡調査を2005年から開始しました。これは今後の歯科治療の方針、口腔衛生指導、治療計画などにおいて子ども達の将来を見据えた、より良い歯科診療活動が続けることを目的とした試みです。

具体的に、5人一組で下記の様なA・B・Cの3つのグループに分けました。

A=カリエス*1が少なく、プラーク付着も少ない

B=多少カリエスがあり、口腔衛生状態は普通

C=ほぼ全部がカリエスで、衛生状態も不良

検診、口腔写真撮影、模型印象などを行いました。

15名を集めることは大変な作業であり、頭を固定できない環境下で口腔写真を撮り、模型を印象、石膏流しをするという作業は大変困難でした。

まだ3回目の写真撮りであります、子どもの年齢が丁度乳歯から永久歯への交換期であり、少し著明な結果が見える部分があるので、中間報告をさせていただきます。

A グループ



2005・11月



2007・11月



カオハガンでこのようなAグループの子どもの口腔内を見るとほっとします。中学生となった現在は歯列が綺麗にそろい、カリエスフリー*2であります、三年前と比べ、右下1番唇側の歯石、上顎頬側に付着している歯石が気になるところであります。もう小学生ではないので、自ら除石のスクレーピング*3をしない限り、このまま付着し続け、将来歯周病に進む可能性もあります。

B グループ



2005・11月



2007・11月



2005 年には乳歯の臼歯部はほぼ全滅でありましたが、彼は良い成功例であります。 永久歯の早期治療と予防充填の徹底による結果です。少し臼歯部7番が曇っていますが、シーラント*⁴をしている乳歯の崩壊からここまで永久歯をカリエスフリーにできたのは、彼の日々の努力による歯ブラシの継続と我々医療チームによる早期治療と予防の徹底によるものです。

C グループ



2005・11月



2007・11月



口腔衛生状態は悪く、歯垢だらけです。3年前は食べる歯が無く、臼歯が全壊している為に顎位が低く前歯部が下唇に当たっていましたが、小臼歯が生え始め、右上の第一大臼歯を早期抜歯したことで、第二大臼歯が近心移動し、取り敢えず噛めるようになっていました。これからの課題がいっぱいのケースです。

2005 年から始まった15名の追跡調査結果をまとめた結果、今後の課題がいくつか見えてきました。成長過程である彼等にとって、予防と治療を徹底することにより、ある程度のカリエスリスクは低下し、永久歯交換期を過ぎると安定した結果をもたらすことが口腔内写真から確認できます。その結果から得られた今後の課題は

- ① ホームケアとしての歯ブラシ習慣を徹底させること。
- ② 調査対象よりもっと低い年齢の幼児の虫歯治療と予防、それに伴った母親教育の必要性
- ③ 島民のライフスタイルに添った母親教育をするに当たり食生活の調査、生活習慣の改善策を考査する。

①の歯ブラシ習慣を徹底させるために年2回の活動時に、ほぼ400名の島民全員に歯ブラシを支給しています。他の島から治療を受けに来た人々にも治療後は歯ブラシを手渡しています。子ども達には小学校で毎回TBIを行い、新しい歯ブラシを配布しています。今年度は島のオーナーである崎山氏が歯ブラシ立てを作成して小学校に取り付けることを約束してくれました。

運動会の賞品としても歯ブラシを配布しています。前年度は「良い歯のコンクール」を行って小学生を対象に表彰式を行いました。

②の幼児の虫歯治療と予防については、小学生で歯科検診を受けた子どもに対しては半ば強制的に治療をしました。そうしなければ殆どの生徒が積極的には治療に来ないからです。

ところが、幼児については検診対象からはずれているため、痛がる子どもだけを治療していましたが、今後、幼稚園にも出向き、検診、予防、治療を徹底したいと思います。

③ の母親教育に関して、今年度の取り組みとして親子調査を開始しました。15名の追跡調査対象に当たる子ども達の親の口腔内写真を撮影しました。親自身に自分の口の中に関心を持ってもらうことによって口腔衛生意識を高めてもらい、子どもの口の中にも興味を持って頂きたいという意図で、11名の親の写真撮影をすることができました。皆協力的で、我が子の写真を手に持って口を開いてくれました。今後、この撮影結果を良いケースの例としてスライドショーを作成したいと思います。それを島民集会などで紹介することにより、島民に虫歯の成り立ちを理解してもらい、キュアとケアの必要性について認識してもらえることを切に希望します。

*¹ 虫歯

*² 虫歯のない状態

*³ 器具で歯石を除去すること

*⁴ 奥歯の溝を、むし歯になる前にフッ素を放出するお薬で埋めてしまう方法で、特に溝が深くて複雑な6歳臼歯に効果的です

ジャパン デンタル ミッションについて

Year	沿革
1982	現在、当会代表理事の沢田 宗久が社団法人南太平洋協会の会員で、そこでヴァヌアツ共和国の事を知る
1983	眼科医の岩崎氏とともに“ヴァヌアツに医療を送る会”に歯科医師として、ヴァヌアツ共和国で活動を開始
・ ・ ・	沢田は、一人で活動が続けていたが、現地の人たちの口腔内の機能回復を目的として歯科技工士に同行してもらう事になり、歯科衛生士や一般のボランティアへと参加者層が広がり参加者が増えてくる事となる。
1995	活動内容の拡大から、「南太平洋に歯科医療を育てる会」をNGOとして沢田 宗久が設立
1996	フィリピン共和国カオハガン島在住の崎山克彦氏からの依頼を受け、フィリピン共和国カオハガン島での歯科医療活動を開始
・ ・	ヴァヌアツ共和国に年2回、フィリピン共和国に年3回の活動を継続している。若い層の人材も増え、2001年に青年会が発足した。
2003	NPO法人ジャパン デンタル ミッション誕生
2004	ヴァヌアツ共和国厚生省とJDMの現地における歯科医療サービスについて合意、調印を結ぶ。
現在に至る	

ジャパン デンタル ミッション活動方針

1. 歯科医療活動

・ヴァヌアツ共和国における歯科医療活動

マレクラ島、タンナ島において、中心となる病院を拠点として診療活動を行っています。また、病院の周辺の小・中学校に行き歯科検診及びブラッシング指導を行っています。

・フィリピン共和国における歯科医療活動

カオハガン島において、簡易診療所を中心に診療活動を行っています。島内にあるカオハガン幼稚園・小学校に歯科医師・歯科衛生士・ボランティアのチームで歯科検診並びにブラッシング指導や染め出しを行い歯の磨き方を指導しています。

2. 文化交流活動

・絵画交換

ヴァヌアツ共和国、フィリピン共和国の両国共に日本から画用紙や絵の具、クレパスを寄贈し、子供たちに絵を描いてもらいます。その絵を、日本に持ち帰り絵画展を様々な所で行い文化の交流を図っています。

また、白地の鯉のぼり、凧に子供たちが絵を描き、交換しました。

3. 生活向上活動(派遣国の生活のQOLがより向上するための活動)

・文房具、スポーツ用品の寄贈

絵画の交流と同時に文房具やスポーツ用品の寄贈も行い、現地の子供たちの識字率の向上、学業支援や健康促進を考えております。

・運動会の開催

フィリピン共和国カオハガン島において、島民たちとのふれあいの意味も込めてJDMスタッフと一緒に運動会を行っています。

協力者名簿

支援協力

- ・ NPOセンター
- ・ (株) TKX
- ・ 青木林業
- ・ (株) アドダイセン
- ・ 大阪船場ロータリークラブ
- ・ 大阪南太平洋協会
- ・ (株) オクウチサービス
- ・ 関西国際交流団体
- ・ 関西学院中学部
- ・ (株) 北野商店
- ・ 牛乳石鹼共進社株式会社
- ・ (株) 清原
- ・ (株) 工藤産業
- ・ 沢井製菓株式会社
- ・ スポーツネットワークジャパン
- ・ 甚田会計事務所
- ・ 整水工業株式会社
- ・ (株) 太平洋旅行
- ・ つるや株式会社
- ・ (株) 不二印刷
- ・ 南総工業 (株)
- ・ (株) ニッタハウス
- ・ (株) 樋口材木店
- ・ 福德合成工業
- ・ 蛍印刷株式会社
- ・ 京呉服 宮下
- ・ 八尾ロータリークラブ
- ・ (株) 八千代オート
- ・ (株) 陽春園

物品提供

- ・ Greempath Corporation
- ・ (株) UHA味覚糖
- ・ アベ・ラベリング
- ・ (株) ロジティックス
- ・ (株) サクラクレパス
- ・ (株) 山貴産業
- ・ 株式会社根来
- ・ サント電気株式会社
- ・ セイコーエプソン株式会社
- ・ 曽和繊維工業 (株)
- ・ 大日本除虫菊株式会社
- ・ (株) タナベスポーツ
- ・ 有限会社トリビ
- ・ (株) トキワ
- ・ (株) ナカガワ
- ・ ハグルマ封筒 (株)
- ・ (株) 林
- ・ フーセンウサギ株式会社
- ・ 太平工業株式会社

歯科関連

- ・ DENTRADE
- ・ 大阪歯科大学 口腔衛生科
- ・ 尾崎歯材 (株)
- ・ 川西市歯科医師会
- ・ グラスコ・スミスクライン株式会社
- ・ 澤田歯科
- ・ サンスター株式会社
- ・ 株式会社ジャックス
- ・ シンク (株)
- ・ (株) スモカ歯磨
- ・ 住之江歯科医師会
- ・ 嶽北歯科
- ・ 中央区南歯科医師会
- ・ 西澤歯科医院
- ・ 日本歯科医師会生涯研究課
- ・ 白水貿易株式会社
- ・ (有) ハマダデンタルサプライ
- ・ 樋口歯科医院
- ・ 平田歯科医院
- ・ (株) モリタ
- ・ (株) 矢田化学
- ・ 山本歯科商店
- ・ 吉竹歯科医院

IT 関連

- ・ (有) システムつう
- ・ ヴェリテック・アイコニックス・ベンチャーズ (株)
- ・ ユー・エフ・オー株式会社

個人支援協力

- ・ 池内 正彦
- ・ 内田 千代子
- ・ 大嶋 捷正
- ・ 太田 暁子
- ・ 沖 真一郎
- ・ 奥内 由見子
- ・ 斧原 秀夫
- ・ 欠野 アズ沙
- ・ 柏木 治行
- ・ 片岡 清夫
- ・ 神谷 保
- ・ 神原 正樹
- ・ 川田 修弘
- ・ 川田 昌美
- ・ 河野 比子
- ・ 小島 常男
- ・ 阪上 勝利
- ・ 阪本 妙子
- ・ 崎山 克彦
- ・ 佐野 清
- ・ 沢井 武清
- ・ 清水 美代子
- ・ 白井 淳二
- ・ 新川 幸次郎
- ・ 鈴木 しげ子
- ・ 世良 綾子
- ・ 園山 春二
- ・ 竹林 和彦
- ・ 武安 俊子
- ・ 田坂 修
- ・ 田中 愛子
- ・ 出井 晴雄
- ・ 中野 栄津子
- ・ 中原 道朗
- ・ 西 京子
- ・ 西澤 永子
- ・ 西原 則子
- ・ 西村 文延
- ・ 新田 昌男
- ・ 橋本 雄司
- ・ 長谷川誠太郎
- ・ 林 怡久雄
- ・ 濱口 綾子
- ・ 東芝 茂樹
- ・ 樋口 淳一
- ・ 平田 実
- ・ 福本 幸一
- ・ 松谷 廣信
- ・ 山田 一郎
- ・ 山田 登紀子
- ・ 吉井 照子
- ・ 吉本 晴彦

2009年度海外活動予定

参加のジャンルは、歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士、一般ボランティアとなっておりますが、どなたでも参加できます！現地での仕事はたくさんあります！皆様のご参加をお待ちしております。詳しくは、ホームページ <http://www5.ocn.ne.jp/~jdm> をご覧下さい。

日 程

ヴァヌアツ共和国		
チーム名	日 程	締切日
6月チーム (レクチャー主体)	2009年 6月14日～ 6月15日	2008年 4月30日
7月チーム	2009年 7月12日～ 7月21日	2009年 5月31日
10月チーム	2009年 10月14日～ 10月21日	2009年 8月31日

フィリピン共和国		
チーム名	日 程	締切日
11月チーム	2009年11月21日～11月26日	2009年 9月30日
2月チーム	2010年 2月11日～ 2月15日	2009年12月31日

募集人員

歯科医師	約3名前後
歯科技工士	約3名前後
歯科衛生士	約3名前後
ボランティア	約3名前後

参加費用参考

	ヴァヌアツ共和国	フィリピン共和国
科 目	金 額	金 額
航空運賃 ＊1	約24万円前後	約8万円前後
滞 在 費	2万円前後	なし
海 外 傷 害 旅 行 保 険 代	約1万円 (任意)	約1万円 (任意)
ユニフォーム代 ＊2	3千円	3千円
合 計	約 27万円前後	約 9 万円前後

＊1:航空運賃は時期により変動します

＊2:持っていない方のみ

理事



代表理事
沢田 宗久



副代表理事
平田 敏彦



理 事
吉竹 弘行



理 事
河内 光明



理 事
栗山 雅行



理 事
田中 良明



理 事
小西 あゆみ



理 事
森田 朋美



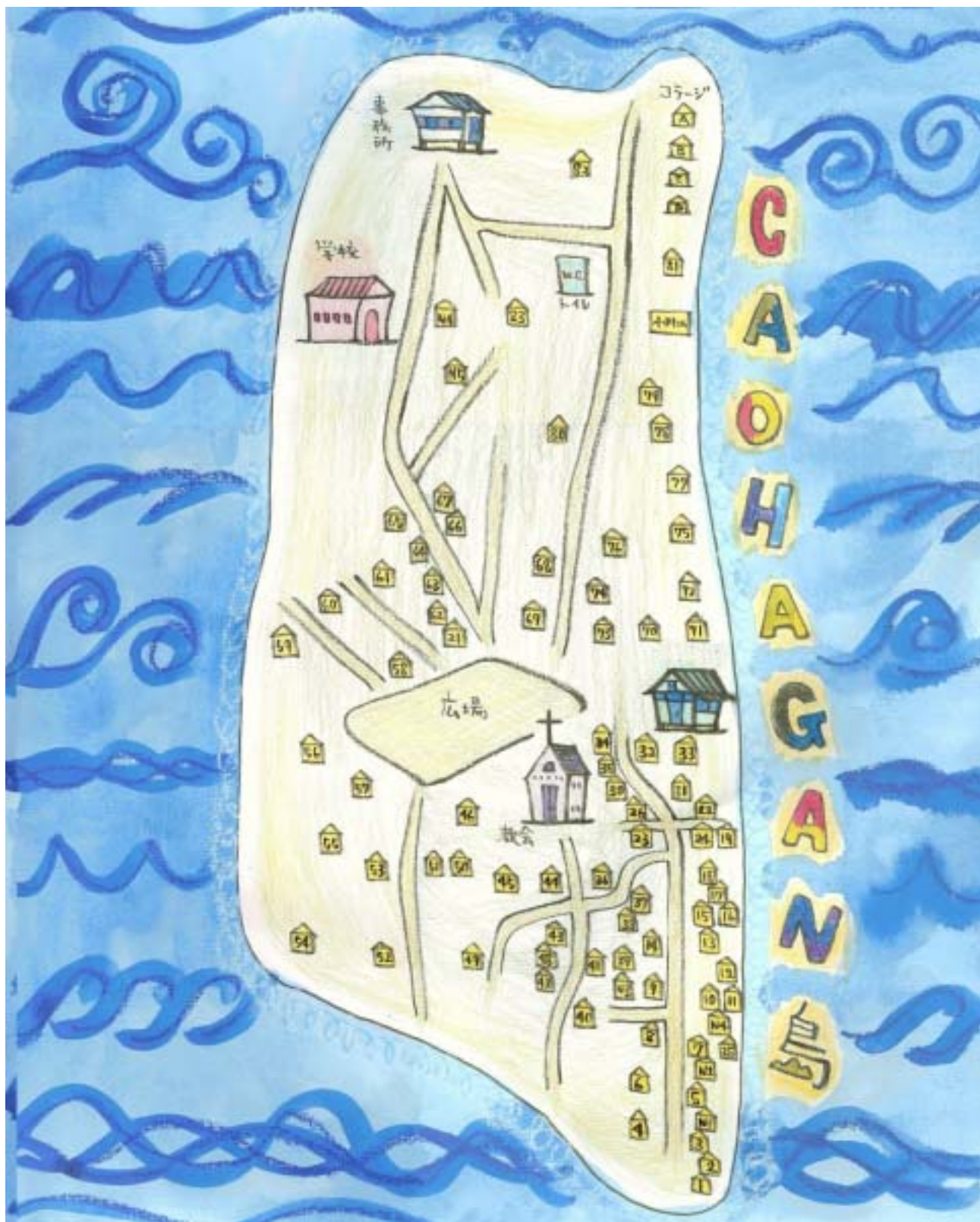
理 事
上崎 秀美



理 事
吉井 照子



理 事
富田 真仁



フィリピン共和国カオハガン島

2009年 6月 26日 発行

発行者 NPO法人ジャパン デンタル ミッション

〒542-0085

大阪府中央区心斎橋筋 1-5-28 心斎橋コアビル 澤田歯科内

TEL:06-6252-0118 FAX:06-6252-5351

URL:<http://www5.ocn.ne.jp/~jdm/index.html>

E-mail:jdm@themis.ocn.ne.jp

＊本書の一部または全部を無断で複製、転載引用することを強く禁じます。

ヴァヌアツ共和国タンナ島

ラナケル小学校で泳ぐ鯉のぼり（八尾市立西山本小学校の生徒作）

